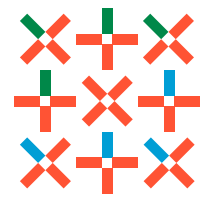


高粱“ひと”図鑑
-TAKAHASHI "Hito" ZUKAN-



わたしあうまち 高梁市

Bridging Together TAKAHASHI CITY

高梁市の好きなところは？

そう聞かれて、まず思い浮かんだのは“ひと”でした。

近所のおばあちゃん、学校の先生や友達、カフェのマスター、商店のおかあさん……

普段、何気なく接している人たちも、実はいろいろなストーリーを持っている。

“すごい人”ではなくとも、みんな、かけがえのない高梁市の宝物です。

この「“ひと”図鑑」には、そんな高梁市の“ひと”を集めました。

こんなに身近に素敵な“ひと”が溢れている高梁市って、

なんだか素敵だと思いませんか？





ベトナムから高梁へ ずっとここで暮らしたい！

チャン・ティ・ホー・グエンさん

吉備国際大学は世界各地から留学生を受け入れている国際色豊かな学校だ。現在、経営社会学科でビジネスを学んでいるグエンさんも、ベトナムからの留学生。「ベトナムには日本の企業も多いし、留学経験があるとキャリアアップを目指すこともあり日本に来ました」

来日時、高梁市のことはまったく知らなかったという彼女。「家族も友達もいないし、街も静かで遊ぶところもわからない。とにかく寂しくて1週間ずっと泣いてたんですよ」と当時を振り返る。しかし、大学のスタッフに市内を案内してもらうち、人の温かさやまちの魅力に気づいたそう。「知らない

私が好きな高梁市 /

私のお気に入り、備中松山城の雲海と吹屋地区。すごくきれいで、いつも写真をたくさん撮っています！



作業療法を通じて、 地域の人を繋いでいく

やまもと とも こ
山本 倫子さん

「患者さんへの対応を一律にマニュアル化するのはなく、一人一人の思いを汲んで、オーダーメイドで対応していく療法を『クライアント・センタード』といいます。吉備国際大学の作業療法教育では、この考え方に基づいた教育が行われていると知って共感し、『絶対にここで研究したい！』と思いました」

大学院を卒業後、臨床の現場に。しかし、社会人として働くうちに、研究をしたいという気持ちが湧き上がった。そして、吉備国際大学の教育方針を知り、「作業療法を通して人の生活を豊かにする研究がしたい」と入職。現在は精神科の授業を

私が好きな高梁市 /

備中たかはし松山踊りや旧暦のひな祭りなどの豊かな文化、そして吹屋地区や田畑の美しい景観。私にできることは「好きでいる」ことくらいですが、大切に守られていってほしいと願っています



人としての成長を得た夏 夢は高梁市で英語教師に

たぐちはるな
田口 陽菜さん

高梁市では、国際姉妹都市であるアメリカ合衆国オハイオ州トロイ市に、国際交流事業の一環として市内の中学生を派遣している。2023年度のメンバーに選ばれた田口さんは、川上中学校の3年生。「結果通知を見たときは、ワクワク感と同時に、勧めてくださった先生や、私の思いを尊重してくれた家族への感謝の気持ちでいっぱいでした」

空港で迎えてくれたホストファミリーの弾けるような笑顔を見て、初めてのホームステイに対する不安もすぐに吹き飛んだという。現地ではたくさんの思い出もでき、お別れ会では生徒代表として挨拶も行った。「帰り際、ホストマザーが『あなたは私の娘よ』と言ってくれて、自然と涙がこぼれま

私が好きな高梁市 /

川上町の夏最大のお祭り「絵ぶた祭り」です！これまでは見ている側でしたが、初めてボランティアとして参加して、みんなが盛り上がっている姿を見てうれしくなりました



備中神楽の未来のために 女性初の神楽師を目指す

ふじわら りな
藤原 里菜さん

備中神楽は、備中地域を代表する伝統芸能のひとつ。古来より受け継がれてきた神事としての神楽と娯楽性の高い演目が混在していることが特徴で、江戸時代末期に成羽町で創案された。市内では備中神楽の保存と継承のため、さまざまな世代の市民が各団体に所属し、活動を行っている。藤原さんもその1人で、兄が舞っている姿に憧れて参加するようになったのがきっかけ。「自分がイメージしているように舞いたくてもなかなかできず、苦労しました。でも、現在まで続けてきて、たくさんの方から応援してもらえるようになったことがうれしいです」

備中神楽の魅力は「舞でストーリーがわかりやすいところや、舞う人によって個性が出るところ」と語る藤原さん。「後世に伝えていくためには、備中神楽発祥の地である成羽町、そして高梁市の支援を得て、全国で披露する機会が必要ですよ」と、郷土の貴重な文化を次の世代に受け継ぐためにどうすればいいのか、未来に向けたビジョンを持って取り組む。

私が好きな高梁市 /

「成羽愛宕大花火」は300年以上の歴史があり、これからもずっと続けてほしいイベントです。手作りの仕掛け花火などもあり、毎年楽しみにしています



暮らしの基盤を支え高梁に賑わいを

よし い しん た ろ う
吉井 慎太郎 さん

「備中松山城は今、県外や国外からも観光客が来ていますが、僕にとっては観光地というイメージではなくて、いつもそこに見えている場所。まず思い浮かべるのは、高校時代に所属していた陸上部のトレーニング。お城まで登らされるのが本当にキツくて、まさに「修羅場」でした（笑）」と、常にその存在を身近に感じてきた生粋の「まちなか」育ち。学生の頃は高梁市を出て就職する道も考えたそうだが、最終的には「地元企業に就職して、これまでお世話になった地域の人たちの役に立つ仕事したい」と、高梁市に本部を置く備北信用金庫に入庫した。そんな吉井さんだからこ

＼私が好きな高梁市／

高梁市の地酒です。日本には美味しい地酒がたくさんありますが、高梁のお酒を飲むと「やっぱりこれだな」と思いますね



「ふるさとが大好きだ」 これからもそう言えるまちに

みなみ よし た か
南 賀隆 さん

高梁市には、備中松山城をはじめ、多くの魅力的な観光地がある。そんな高梁市の観光事業を支えているのが、（一社）高梁市観光協会の南さんだ。観光施設の管理やPR、イベント運営などの業務に加え、高梁市観光ガイド会にも所属し、休日は観光客の案内もする。備中松山城の猫城主さんじゅーろーとは、市のPRに取り組むよきパートナーだ。

山口県出身の南さんは、大学進学と同時に高梁市に来了。高梁市観光協会が組織する「踊りフレンズ」に所属し、備中たかはし松山踊りの関連イベントにもたびたび出演。その経験が現在の仕事に繋がったという。

＼私が好きな高梁市／

猫城主さんじゅーろーです。西日本豪雨災害の悲惨な状況のなか、現れたさんじゅーろーは、異名通りの招き猫で、まちに勇気や希望を与えてくれました。一致団結して苦難を乗り越えたことは、忘れられない記憶になっています



地域の人たちに元気を届ける アナウンサー

なかにし め い
中西 芽生 さん

高梁市を拠点に、地域の情報を地域の人のために発信するテレビ局「吉備ケーブルテレビ」。2023年に入社した中西芽生さんは、局の顔であるアナウンサーとして番組制作に携わっている。子どもの頃からテレビが大好きだったという中西さん。なかでも、いつも笑顔で「今日もがんばりましょう」と画面越しに声をかけてくれるアナウンサーの存在に、元気をもらってきた。そして自身も同じように誰かに元気を届けたいと、この職を目指したそう。

生まれ故郷の福井や学生時代を過ごした京都を離れ、初めて暮らす高梁市。取材を通してさまざまな人と出会う機会も得られ、「地域の人たちが本当に温かく、県外出身の私に優しく接してくださいました。この思いを忘れず、高梁の方々に恩返しができるよう、取材や番組制作をがんばります」と、市への思いを語ってくれた。

＼私が好きな高梁市／

「吹屋ふるさと村」はいつ行っても心安らぐ場所。レトロなカフェやボンネットバス、美味しいカレー屋さんもあって、どこか懐かしい気持ちになります



市民の命を最前線で守る救急救命士

た な か ひろ ゆ き
田中 宏幸 さん

「体を動かすことが好きで、人の役に立つ仕事がしたい」と思い始めた頃、5歳年上の従兄が消防士になったんです。その姿に憧れて消防士を目指しましたという田中さん。「それに、車が好きだから消防車に乗れるのもいいな、と（笑）」

その憧れを胸に、高校卒業後は高梁市消防本部に。消防隊、救急隊、救助隊として現場で活動を続け、救急救命士の資格を取得後、令和4年には高梁市初の指導救命士の認定を受けた。「相手の気持ちを汲み取るような隊員を育てたい」と、現在は自身も現場に同行しながら後進の教育に力を注いでいる。

＼私が好きな高梁市／

バイクに乗るのですが、市内には山の中を縫って走ったり川沿いを走る道も多く、楽しめます。夜は星もきれいですし、季節や時間によってさまざまな景色や空気が感じられますよ

※山田方谷：江戸時代末期の備中松山藩士。藩政改革で活躍



人の温かさに触れながら 3人の子どもを育てるママ

こばやし ゆ ま
小林 友麻さん

現在、3人の子どもを育てる小林さん。高梁市での子育ては「周囲の人がとにかく温かい」と感じることはかなりのだそう。

愛知県から結婚を機に高梁へ。来たばかりの頃に西日本豪雨に遭遇し、近くに頼れる親戚もいないなか断水に見舞われた。「そのとき長男は6か月。市で案内されたお風呂施設に連れて行くのも大変で、本当に困っていました。」

そんなとき、「子どもを見ていてあげるから、ゆっくり入ればいいよ」と知人が家に呼んでくれたそう。

そのほかにも、病院で子どもが騒いだときに優しい言葉をかけてもらったりと「温かい言葉や心遣いにどれほ

私が好きな高梁市 /

夏休み中に子どもたちと何度も行った井谷の水車小屋の水辺！あと休日には有漢農村公園によく行きます。それと、吹屋ふるさと村は空気も澄んでいて景色がよくて気持ちいいです



地域の親子を支えたい！ 歌う子育てサポーター

にしおか ま り こ
西岡 真里子さん

「高梁市って『童謡のまち』として毎年『童謡まつり』が開催されてきたんですよ」と、愛用のギターを抱えてにつこり微笑む西岡さん。学生時代はフォークデュオを組んで活動していたそうで、現在は親子で楽しめる音楽を、歌やギター演奏を通して伝えていく。

進学を機に生まれ育った島根県を離れ、岡山に。倉敷の幼稚園に3年間勤めた後、結婚と同時に高梁市へやってきた。「高梁市の豊かな自然に囲まれ、まわりの方々に支えていただき、3人の子どもを育てることができました」

そして、子育てがひと段落したタイミングで市内の幼稚園に復帰。子育て支援セン

私が好きな高梁市 /

平成29年度「高梁文学選奨」の童謡作詞部門で、私が作詞・作曲した「雨のおくりもの」が入選！“新しい童謡”として幼稚園の子どもたちに歌ってもらい、最高の思い出になりました



地域医療を支え、切り拓く ママさん看護師

わたなべ な み
渡邊 奈美さん

成羽地区を中心とした地域の人々の健康を支える成羽病院。ここで外来の看護師として働く渡邊さんは、結婚を機に高梁市に来た。

「以前は都市部の大きな病院で急性期に携わっていたこともあり、正直、『地域の小さな病院の外来では、活躍の機会に限られるかも』と思っていました」。しかし、実際に働き始めてみると、同僚も上司も向上心に溢れ、日々多くの刺激を受けているという。

そんな彼女がここで看護研究のテーマとしたのが、地域病院のブランディング。成羽病院の存在価値を見つめ直し、自分たちが行っている外来継続看護の質を高めたいと考えた。「これまで外来看護師は外来

私が好きな高梁市 /

商店街で行われるイベントを、いつも子どもと一緒に楽しんでいます。ちなみに子どもは「松山踊り」が大好きで、編み笠を買わされました(笑)



高梁から世界を目指す なでしこリーガー

にしむら る あ
西村 留亜さん

「吉備国際大学Charme岡山高梁」は、吉備国際大学女子サッカー部として発足後、日本女子サッカーリーグに参入。高梁市を拠点とする地域密着型のサッカーチームとして、地域貢献活動などにも積極的に取り組みながら、活動を行っている。

そのシャルムで攻撃の要となるFWを務めるのが、西村選手だ。下部組織である「FC Charme岡山アカデミー」出身で、高校時代からシャルムの選手として試合にも出場。順調にキャリアを重ね、現在はプロとしてプレーする。

先にサッカーを始めていた姉の影響で、自身もサッカーを始めた西村選手。「蹴り方

私が好きな高梁市 /

ホームである神原スポーツ公園は私を成長させてくれた場所。思い入れがあります。それから、いつも行く駅前の焼き鳥屋さんもお気に入りです！



高粱に根を下ろし ここから福祉の現場を変えていく

みやざき かず や
宮崎 知也 さん

こだわりの詰まった新築から現れたのは、スタイリッシュなスーツに身を包んだ宮崎さん。市内で介護業界のデジタル化推進に取り組む、地域おこし協力隊員だ。「緑豊かな土地で家を建てたいと思っていたので、高粱市で実現できてうれしいです」と、移住から2年目を迎える宮崎さん。移住から2年目を迎える宮崎さん。移住から2年目を迎える宮崎さん。

「高粱市は高齢化率で見ると、20年先を行く課題先進地域。これをチャンスと捉え、課題を解決していくことで他の地域にも展開できるモデルを作り上げたい。そして、高粱市にはそれを実現できる可能性があると思っています。現場の課題は事業所ごとに対応して、解決できません。官民が手を取り合って取り組むことができるよう、今後アプローチしていきます」

私が好きな高粱市 /

落合町福地にある、スペシャルティコーヒー専門店です。コーヒーはもちろんオーナーも魅力ある方で、いつも気がつく2時間は経っています



埋もれていた高粱のお茶を 再発見し、守り、広める人

にしはら ち おり
西原 千織 さん

川上町でお茶専門店「まのび堂」を営む西原さんは、東京都出身。縁もゆかりもない高粱市に移住したきっかけは、高粱市に住む知人が「高粱紅茶」を手土産に遊びにきたことだった。「面白いお茶作りをしている地域がある」と聞いて興味を惹かれ、訪れてみてびっくり。貴重な在来種のお茶の木が残っていたんです！

現在、商用として栽培されているお茶の木は、ほとんどが収益性の高い改良品種。しかし、昔の農家には在来種のお茶の木があって、自分で摘んだ茶葉を釜で炒ってお茶にしたり、作業の合間に枝ごと折ったお茶を煮出して飲んだりしていたそうです。その名残が高粱市にありました。さらに調べてみると、備中松山藩のお殿様に献上されたといわれている木であることもわかった。

私が好きな高粱市 /

「弥高山」の山頂からの風景は素晴らしく、その近くにある「穴門山神社」も隠れたパワースポットです。また、伝統芸能のない土地で育ったので、「備中神楽」や「渡り拍子」などが生活の一部に組み込まれていることに感動しました



よりおいしい「備中牛」を全国の消費者へ

えぐさ しんいち
江草 真一 さん

古くから高粱地域で飼育されてきた黒毛和牛「備中牛」。時代の流れとともに一時は飼育頭数減少の一途を辿ったが、地域の伝統ある牛を受け継ごうと見直しが進み、現在はびほく地域を中心に、ブランド牛としてその価値を高めている。備中町にある「江草牧場」は、県内でも数少ない繁殖から肥育まで一貫した経営を行う畜産農家だ。当代の真一さんは、父や叔父が二人三脚で作ってきた牧場を継ぎたいと思い、(財)中国四国酪農農学校へ進学。卒業後に江草牧場で働き始めた。愛情を込めて丁寧に育てた江草牧場の和牛は、その品質が認められ、農林

水産大臣賞を受賞。「牛の環境を第一に考え、牛の寝床の床替えを頻繁に行う、山からの湧水をいつも新鮮な状態で飲めるように水槽をきれいに保つなどの工夫をしています。また、飼料会社の協力のもと、自分たちで考えたオリジナルの餌を与えています」と、そのこだわりを語ってくれた。今後について伺うと、「耕作放棄地を利用した放牧に取り組みたいと考えています。最終的には、生産から消費者までお届けできる6次化を目指したいですね」とのこと。受け継いだ高粱の財産を、より多くの人のもとへ届けていく。

私が好きな高粱市 /

母校の高粱高校です。野球がしくて入学したので苦労しましたが、良い糧になっています。また多くの先輩方が身近におられると社会に出てもからわり、誇りに思います



世界に誇るびほくのピオーネ その価値を高めていく

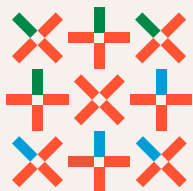
ふじい いさお
藤井 功雄 さん

のどかな山村の風景が広がる高倉町。藤井さんは農協の職員として長く地元に貢献した後、早期退職をしてピオーネ農家に転身した。それから約15年。「美しい色を出すために手間はかかるけど、色・食味・粒・房形、どれをとってもびほくのピオーネが日本一」と胸を張る。びほくでは630人あまりの生産者が連携し、栽培の「虎の巻」を共有。安定して高品質のピオーネを生産できるよう一丸となって取り組んできた。実際に「びほくのピオーネ」を指名買いする顧客も多く、香港や台湾からの注文も増えているという。

「うちはあんまりブドウ栽培は上手くないんだけどね」と笑う藤井さんだが「びほくどう生産部会」の部長を務めて6年になる。国内外の卸業者やバイヤーが見学したいと言えば積極的に受け入れ、たくさんのお土産を持たせる。新規の就農希望者が来れば、親身になって世話をする。そんな人柄も慕われる理由のひとつなのだろう。課題は常につきまとうが、藤井さんがピオーネにける熱意は変わらない。「最近収益性の高いシャインマスカットが増えてくるけども、びほくはやっぱりピオーネ。よりよいものを作り続けて、大事にしていきたいね」

私が好きな高粱市 /

高粱市のよさは、昔から変わらない景観。そして、ご近所さんとの支え合う関係です



わたしあうまち 高梁市
Bridging Together TAKAHASHI CITY

＼ 高梁市の最新情報はここから ／



公式Instagram



公式Youtubeチャンネル



公式X(旧Twitter)



公式LINE



高梁市

〔お問い合わせ先〕

〒716-8501 岡山県高梁市松原通2043番地

〈Tel〉0866-21-0208(秘書企画課)

〈Fax〉0866-21-0261

市ホームページは
こちらから

<https://www.city.takahashi.lg.jp>

